

コマツナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

薬剤名	作用機 構分 類コ ード	人 畜 毒 性	使 用 時 期 (日 数)	使 用 回 数	白 さ び 病	根 こ ぶ 病	立 枯 病 (リ ゾ ク ト ニ ア 菌)	白 斑 病	ア ブ ラ ミ ウ シ 類	ア ザ ミ ウ マ 類	コ ナ ガ シ	ア オ ム シ	ヨ ウ ム シ	ハ ス モ ン ヨ ト ウ 類	ネ キ リ ム シ 類	ハ イ マ ダ ラ ノ メ イ ガ シ	キ ス ジ ノ ミ ハ ム シ ラ	ケ ク サ イ ダ ニ	カ タ ツ ム リ 類	ナ メ ク ジ 類	
アミスター20FL	11		7	2	◎			◎													
フロンサイド粉	29		*a	1		◎	◎														
ユニフォーム粒	4・11		*a	1	◎																
スラゴ粒*1	UN		*d	-																◎	◎
ジェイエース粒	1B		*a	1					◎												
ダイアジノン粒5	1B		*b														◎	◎			
			*e	1												◎					
			*c													◎					
アディオン乳	3A		1	3								◎							◎		
アクタラ顆溶	4A		3	2					◎												
アクタラ粒5	4A		*b	1					◎												
ダントツ溶	4A		3	3					◎												
ダントツ粒	4A		*b	1					◎												
ディアナSC	5		1	2						◎	◎	◎	◎	◎		◎					
アフーム乳	6		3	2							◎										
コテツFL	13	劇	3	1							◎	◎							◎		
プレオFL	UN		1	2							◎			◎							
アフームエクセラ顆水	6・15		3	2							◎										

*1:「ナメクジ類、カタツムリ類、アフリカマイマイ、ヒメリンゴマイマイが加害する農作物等」での登録。

*a:播種前 *b:播種時 *c:出芽時 *d:発生時 *e:播種時又は定植時

コ
マ
ツ
ナ

コマツナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

主要病害虫発生消長	1月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
病害	露地	—			—	—	—	—	—	—	—	—
	苗立枯病 白さび病 炭疽病			—	—	—	—	—	—	—	—	—
	施設	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
虫害	コナガ キスジノミハムシ アブラムシ類 ハモグリバエ類			—	—	—	—	—	—	—	—	—

作型 — ; 栽培期 — ; 収穫期
 病害虫発生消長 — ; 発生期 — ; 発生盛期

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
白さび病	播種前	・次の薬剤を全面土壌混和する。 ユニフォーム粒剤 9kg/10a	露地栽培で発生する。5～7月と10～12月の雨期に発生が多い。 *非結球アブラナ科葉菜類での登録
	生育期	1. 雨よけ栽培を行う。 2. 次の薬剤のいずれかを発生初期に散布する。 アミスター20フロアブル 2000倍 ピシロックフロアブル* 1000倍 ライメイフロアブル* 2000～4000倍 ランマンフロアブル* 2000倍	
	収穫後	・収穫後の残渣は丁寧に除き、畑にすきこまない。	
炭疽病	生育期	1. 雨よけ栽培を行う。 2. 発病株はただちに除く。 3. 発病畑周辺の除草を行う。 4. 発生を見たら次の薬剤を散布する。 スクレアフロアブル* 2000倍 ベンレート水和剤* 4000倍	露地栽培で発生する。6～10月に雨が続きと多発する。潜伏期間は3～4日でまん延が早い。圃場衛生等、予防に重点をおく。 *非結球アブラナ科葉菜類での登録

コマツナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
モザイク病(縮葉症状)	播種期～生育期	・播種後収穫1週間前まで寒冷紗を被覆する。	寒冷紗被覆は白さび病が発生しやすくなるので注意すること(ハクサイの項参照)。
黒腐病	生育期	・雨よけ栽培にすると被害は少なくなる。	6～7月の梅雨期と9月の秋雨期に発生が多く、収穫間近に急にまん延する。
萎黄病	播種前	1. 土壌消毒する(土壌消毒の項参照)。 ガスタード微粒剤 20～30kg/10a 2. 発病が少ない品種を選ぶ。	7～8月に発生が多い。病原菌はダイコン、カラシナ以外の多くのアブラナ科野菜を侵す。
立枯病(リゾクトニア菌)	播種前	・高畝にするなど、圃場の排水を良好にする。 ・次の薬剤を全面土壌混和する。 フロンサイド粉剤 30kg/10a	主に11～2月頃の低温期に発生する。
アブラムシ類	播種時	1. パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培ではサイドネットや入り口に防虫網を設置する。 2. 次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 アクタラ粒剤5 (作条) 6kg/10a アルバリン粒剤* (播溝) 6kg/10a スタークル粒剤* (播溝) 6kg/10a	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アクタラ顆粒水溶剤 2000倍 アグロスリン乳剤* 2000倍 ウララDF* 4000倍 モスピラン顆粒水溶剤* 4000倍	
ハモグリバエ類	播種時・生育期	1. パスライトやパオパオ等0.8mm以下目合いの資材による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培ではサイドネットや入り口に防虫網を設置する。 2. 発生を見たら次の薬剤を散布する。 スピノエース顆粒水和剤* 2500～5000倍	*非結球アブラナ科葉菜類での登録

コマツナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ハイマダ ラノメイ ガ(ダイコ ンシンク イムシ)	生育期	1. パスライトやパオパオ等の被覆栽培で成虫の飛来を防ぐ。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 スピノエース顆粒水和剤*1 2500～5000倍 チューンアップ顆粒水和剤*2 2000～3000倍	夏が高温乾燥のときに多発する傾向があり、8月上旬以降急増する。 生育初期に加害されると芯止まりとなる。 *1非結球アブラナ科葉菜類での登録 *2野菜類での登録
コナガ	播種時 ・生育期	1. パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培ではサイドネットや入り口に防虫網を設置する。 2. 露地栽培ではコナガコン◇を8～10m間隔に支柱を立て、たるまないように畝に平行に100～110m/10a 又は20cmチューブを200本/10a 設置する。施設栽培ではハウス内の天井に近い位置に100～400m/10a (100mリール) となるよう固定する。 3. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アニキ乳剤*1 1000～2000倍 エスマルクDF*2 1000～2000倍 コテツフロアブル 2000倍 ディアナSC 2500～5000倍 プレオフロアブル 1000倍 プレバゾンフロアブル5*1 2000倍 マッチ乳剤*1 2000倍	◇フェロモン剤の使用に当たっては可能な限り広範囲での使用が望ましい。 *1非結球アブラナ科葉菜類での登録 *2野菜類での登録
アオムシ	播種時	・パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培ではサイドネットや入り口に防虫網を設置する。	
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 コテツフロアブル 2000倍 エスマルクDF*1 1000～2000倍 スピノエース顆粒水和剤*2 2500～5000倍 マッチ乳剤*2 2000倍	*1野菜類での登録 *2非結球アブラナ科葉菜類での登録

コマツナ(野菜類、非結球アブラナ科葉菜類の登録農薬も使用できる)

病害虫名	防除時期	防除方法	参考事項
ヨトウムシ	播種時	・パスライトやパオパオ等による被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培ではサイドネットや入り口に防虫網を設置する。	5～6月と9～10月の2回発生する。
	生育期	1. 卵塊で産卵され、若齢期は集団で見つけ次第捕殺する。 2. 発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 エコマスターBT*1 1000倍 エスマルクDF*1 1000倍 スピノエース顆粒水和剤*2、# 2500～5000倍	*1野菜類での登録 *2非結球アブラナ科葉菜類での登録 #ヨトウムシ類での登録
キスジノミハムシ	播種時	1. パスライトやパオパオ等0.8mm以下の目合いの資材を使った被覆栽培により成虫の侵入を防ぐ。施設栽培ではサイドネットや入り口に防虫網を設置する。 2. 次の薬剤のいずれかを土壌混和する。 アルバリン粒剤* (播溝) 6kg/10a スタークル粒剤* (播溝) 6kg/10a ダイアジノン粒剤5 (全面) 6kg/10a フォース粒剤* (全面) 4kg/10a	*非結球アブラナ科葉菜類での登録
	生育期	・発生を見たら次の薬剤のいずれかを散布する。 アクセルフロアブル* 1000倍 アニキ乳剤* 1000～2000倍 アルバリン顆粒水溶剤* 2000倍 スタークル顆粒水溶剤* 2000倍	
その他の病害虫		リゾクトニア病、アヤトビムシ、カブラハバチ、クローバーハダニ、ケナガコナダニ、ヤサイゾウムシ	

コマツナ